令和８年　黒部市教育委員会２月定例会　議事録

日　時	令和８年２月27日(金) 午後１時30分～午後３時06分
場　所	黒部市役所市203会議室
出席者	教 育 長　齊藤　誠 教育委員　濱田　賢 教育委員　吉澤　浩司 教育委員　村田　博史 教育委員　松井　美之 教育部長　小倉　信宏 学校教育課長　桐　義輝 生涯学習文化課長　牧野　恵美 スポーツ課長　田中　倫則 図書館長　舘野　敬子 こども支援課長　高野　正規 学校教育班長　若島　肇 学校給食センター所長　松平　真由美 ジオパーク推進班長　王生　透 歴史民俗資料館長　幸林　理恵 学校教育課主幹　奥村　美奈子 学校教育課主幹　山田　真澄
傍聴人	なし

（会議冒頭「市民憲章」朗唱）

教育長　ただいまから、黒部市教育委員会２月定例会を開会します。「議事録の署名について」は、私が署名します。次に、「１月定例会の議事録」について、訂正・質問等がありましたらお願いします。

委員　（質問なし）

教育長　質問等がないようですので、記載のとおりといたします。
次に「４　教育長報告」をいたします。

１　所管事業の状況報告について（行事等）
- (1)　２月１日(日)　第20回黒部市民スキー競技大会（宇奈月温泉スキー場）
- (2)　２月10日(火)　令和７年度伝承芸能・伝承技術士認定式（市役所）
- (3)　２月10日(火)　令和７年度黒部市教育文化表彰式（市役所）
- (4)　２月20日(金)　第３回市町村教育委員会教育長（実務担当者）会議及び第３回富山県ＧＩＧＡスクール推進協議会（市役所）
- (5)　２月21日(土)　令和７年度生涯学習フェスティバル（～22日）（コラーレ）

２　出席した会議等の概要報告について
- (1)　２月５日(木)　福岡県筑前町教育委員会視察（地域クラブ活動について）（市役所）
- (2)　２月６日(金)　学校給食運営委員会（市役所）
- (3)　２月９日(月)　第65回黒部市教育振興協議会（市役所）

(4) ２月26日(木)　第２回黒部国際化教育推進協議会（市役所）

３　所管事務に関する問題・情報等について（児童生徒の安全･安心に関すること）
〔前回会議以降、今回会議までの間〕
(1) 児童生徒の交通事故等（０件）
(2) 学校事故等（７件）
(3) 不審者情報等（１件）
(4) 鳥獣出没情報（１件）

４　いじめの認知件数及び指導の経過（１月報告分）
(1) 小学校（新規認知件数１、指導中18、解消22）
(2) 中学校（新規認知件数０、指導中３、解消２）

５　不登校児童生徒数（１月報告分）
小学校38人/中学校53人/計91人
※月末で当該年度中の欠席日数が30日以上となる児童生徒を計上

６　教員の超過勤務時間について（１月報告分）
(1) 小学校 平均超過勤務時間 26.9時間/45時間以上の割合 14%
(2) 中学校 平均超過勤務時間 32.9時間/45時間以上の割合 30%

７　令和７年度在籍児童生徒・園児数（令和８年２月１日現在）
(1) 小学校　児童数1,765人（前月比 １人増）
(2) 中学校　生徒数　981人（前月比 増減なし）
(3) 幼稚園　園児数　 19人（前月比 増減なし）

８　感染症関連情報　17件
○インフルエンザによる学級閉鎖・学年閉鎖・臨時休業

月　日	学校名	学年、学級	閉鎖状況
１月27日（火）～１月28日（水）	中央小学校	２年１組	学級閉鎖
１月27日（火）～１月28日（水）	中央小学校	第３学年	学年閉鎖
１月29日（木）～１月30日（金）	中央小学校	５年３組	学級閉鎖
２月３日（火）～２月４日（水）	中央小学校	第１学年	学年閉鎖
２月３日（火）～２月４日（水）	中央小学校	２年２組	学級閉鎖
２月３日（火）～２月５日（木）	若栗小学校	第１学年	学年閉鎖
２月３日（火）～２月５日（木）	若栗小学校	第２学年	学年閉鎖
２月６日（金）	若栗小学校	第３学年	学年閉鎖
２月６日（金）	若栗小学校	第６学年	学年閉鎖
２月９日（月）	清明中学校	第３学年	学年閉鎖
２月10日（火）～２月11日（水）	荻生小学校	第２学年	学年閉鎖
２月10日（火）	清明中学校	第１学年	学年閉鎖
２月10日（火）	清明中学校	２年３組	学級閉鎖
２月10日（火）	清明中学校	２年４組	学級閉鎖
２月14日（土）～２月17日（火）	生地小学校	第６学年	学年閉鎖
２月17日（火）～２月18日（水）	荻生小学校	第１学年	学年閉鎖
２月17日（火）～２月18日（水）	荻生小学校	第３学年	学年閉鎖

教育長	以上、教育長報告としますが、確認、質問等がありましたらお願いします。
委員	学校事故についてですが、部活動の練習でドッジボールを行っていた際の事故の報告がありました。中学校の部活動にはドッジボールを行うものはないと思うのですが、指導として正式に取り入れた経緯等があるのでしょうか。
学校教育班長	この件についてですが学校に確認をしたところ、事故発生日が３学期開始日であり、久々の部活動となったことから、体を慣らす目的のレクリエーションのひとつとして、最初はボールをキャッチしあい、次第にリーグ形式になるドッジボールが行われたとのことでした。ドッジボールはいつも行われているわけではないことも確認しています。
委員	ありがとうございます。もうひとつ、インフルエンザによる学級閉鎖等の報告がありましたが、報告されている小中学校に偏りがあると思います。何名以上が発症したら報告等の規則はなかったと思いますが、偏りがある状況について、何か考えられること等はありますか。
学校教育班長	報告の基準となる人数等はありませんが、各学級にて20％程度のインフルエンザによる欠席があった場合や、インフルエンザと思われる疾患による発熱等で自宅療養中・これから病院を診察するといった児童生徒がいる場合に、各学校の校医に現状を相談し、助言を得てから教育委員会と協議し、報告を行っています。学級閉鎖等は学校の判断で行っているのですが、発症者の人数だけで判断するのではなく、学校内での感染が明らかである場合には、発症者の人数が少なかったとしても、状況を校医と相談し、閉鎖等を行う場合もあります。
委員	学級閉鎖等を行った場合の授業の補填については、何か教育委員会から指示等を行うのでしょうか。それとも各学校に委ねているのでしょうか。
学校教育班長	小学校・中学校共に、授業の標準時数があり、例として、小学校４年生から６年生は1,015時間となっております。今年度に授業計画実数の調査を行ったところ、1,100時間以上となる学校はありませんが、ある程度の余裕を持たせて、学校行事やこのような学級閉鎖等の非常時にも対応ができることを、年度当初に確認しています。その上で、学校においても各教科が計画実数を下回らないように、しっかりと管理をしている状況になります。
委員	ありがとうございます。報告されていた学校に偏りがあるように感じたため、質問しました。
教育長	今ほどの説明にもありましたが、実際に発症した人数の割合ではなく、感染拡大等の見込みを含めて判断を行っています。今年の傾向としては、金曜・土曜・日曜の間に罹患し発熱等の症状が出て、月曜日に多くの児童生徒が欠席し、火曜・水曜・木曜を閉鎖したといった状況が多くみられています。ただその中には病院の検査で陰性だった児童生徒が多くいたということも聞いています。また今年はインフルエンザＡ型を発症した後にインフルエンザＢ型を発症してしまうケースもみられることから、早めに健康観察をし、状況を把握し速やかな対応が必要なのではないかということを、校長会にて共通理解しています。閉鎖となった場合、何も発症していない児童生徒への対応については、タブレットを持ち帰っていますので、オンラインでの学習や、宿題等のメール配信を行う等、学習についても様々な工夫を行っています。他に何かありますでしょうか。
委員	（質問等なし）

教育長	次に「５　議案」に移ります。本日の議案は、１件です。では、「議案第３号　令和８年度黒部市教育の方針について」事務局より説明願います。
学校教育課長	令和８年度黒部市教育の方針について説明します。２月９日に開催した、第65回黒部市教育振興協議会にて諮問し、協議の後に内容を決定したものになります。説明についてはお配りした資料を基に説明を行います。内容については１月の定例教育委員会にてご説明を行ったかと思います。今回、教育振興協議会にて協議・決定し変更となった部分に下線を引いて記載しています。変更箇所について、順を追って説明します。まず、１ページ目「１　確かな学力」（１）の①でにて「学びに向かう力や人間性等の」のですが、これは、①と②が同様の内容となるのですが、位置付けを変更すると読みやすいのではないかという変更です。③の「家庭学習の内容を連動させるなど、」についても、内容の変更があったものです。２ページ目の下線がある部分は、語句の変更です。３ページ目「２　教育環境の整備」（２）①ですが、「(黒部市子育て支援ネットワーク事業の推進) や、放課後などの子どもの居場所となっている放課後児童クラブとの連携」という文章を加えました。放課後児童クラブについては、１月の定例教育委員会での説明の際には、５ページ目に記載の「４　特別支援教育」（１）②にて、特別支援教育の中での、教育的ニーズによる児童クラブとの情報の連携といった内容で記載していたのですが、今回は３ページ目に、放課後などの子どもの居場所づくりといった内容で、記載箇所を変更しました。なお放課後などの「など」については、夏休み等を加えるという認識です。９ページ目の「２　文化遺産及び自然遺産の保護活用」（３）ですが、文章内の「SDGs」や「ESD」について、それだけではわかりづらいということで、それぞれ「SDGs（持続可能な開発目標)」「ESD（持続可能な開発のための教育)」と、説明を加えて記載しました。説明は以上です。
教育長	今ほどの説明について、質問等ありましたらお願いいたします。
委員	ESDという言葉について、個人的には聞きなれない言葉だと思うのですが、記載の必要があるのでしょうか。ジオパーク事業はこの言葉を使用して、事業の展開を明示することとなっているのでしょうか。
ジオパーク推進班長	ESD（持続可能な開発のための教育）という言葉については、SDGsと同様に国連やユネスコにて提唱され、使用されている言葉であり、これまで行われていたユネスコスクール等の活動がESDに当てはまる活動です。また、ユネスコ世界ジオパーク・日本ジオパーク委員会においても、このESDという言葉を積極的に使用していこうといった動きがあることから、記載しています。
委員	ありがとうございます。やはり馴染みの少ない言葉かなと思うので、説明を記載しつつ使用していくとよいのではないかと思います。
教育長	ちなみにESDの正式名称はどのようになるのでしょうか。
ジオパーク推進班長	Education for Sustainable Developmentです。
教育長	最近は様々なところで「持続可能」という言葉をよく目にしたり耳にしたりするなと感じています。このジオパークの学習を、自分たちの未来を背負っていくものだという認識で、取り組んでほしいと思っています。 わたしから１つ、先ほどの説明でも出てきた１ページ目についてですが、「非認知能力」という言葉の説明として、お伝えした「学びに向かう力や人間性等の」という言葉を加えました。これまでの「見える学力」ではなく、根底で必要となる見えない部分となる、心の部分を大切にしていこうということを、県とともに黒部市も同様にしてきたのですが、来年度からは改めてこの「非認知能力」という言葉を、学校教育の研修等に

	おいて使用し、進めていくこととしております。 　それでは議案を採決します。議案第３号について、原案のとおり決することにご異議ありませんか。
委員	（異議なし）
教育長	ご異議なしでありますので、議案第３号は原案のとおり決しました つぎに、「６　報告」に移ります。はじめに、「報告第１号　令和８年度一般会計予算（案）（教育委員会関係）の概要について」報告願います。
教育部長	令和８年度一般会計予算（案）（教育委員会関係）の概要について報告します。お配りした資料を基に説明していきますが、説明の前に、まず現在の市の財政・歳入状況についてお伝えします。黒部市の税収入についてですが、近年の物価高騰や賃金等の影響により、個人・法人市民税等の市税収入、地方消費税・交付金・普通交付税・国庫支出金等の増収が見込まれており、一般財源ベースにおいて約８．３億円程度の増収を見込んでいます。一方で歳出においては、社会保障関係経費の増加や、新幹線駅・市庁舎・道の駅ＫＯＫＯくろべ、そして防災行政無線のデジタル化等の整備が計画されており、それらに伴う元金償還の公債費や、一部事務組合の分担金、道路・河川等の維持管理補修に係る投資的経費、賃金に係る給与配当、物価高騰に伴う経費の増大が見込まれており、歳入も大きく伸びる一方で、歳出も同等、もしくはそれ以上に増加していくものと見込んでいます。市の予算編成方針としては、このような厳しい財政状況の中であっても、第２次総合振興計画の基本計画の基本理念に掲げている、市民の参画と協働によるまちづくりに沿って、ソフト・ハード事業をバランスよく展開していくこととしており、市長の公約である「住む人が輝き、人が人を呼び込むまちづくり」において政策を推進することとしており、資料に記載されている11項目を「黒部の未来枠」として重点的に取り組む事業として掲げています。この後、資料に沿って各事業について説明を行いますが、資料に赤文字で記載されている事業のうち、事業名の前に墨付きの括弧がある黒部の未来枠、二重丸のある新規事業、丸印のある拡充事業、これらを中心に説明を行います。まずは総務費の物価高騰対策費の2,021万６千円です。これは黒部の未来枠の拡充事業である、学校給食費負担軽減対策事業費です。これは、中学校と幼稚園の児童生徒の給食費の物価高騰に伴う給食食材費の高騰分について、保護者負担を求めずに市が負担するとともに、市の地場産食材を使用し、地元生産者の支援を行うものになります。なお、保護者の負担については、平成28年度から据え置いており、この事業についても物価高騰補助として、令和４年度より実施している事業となります。給食費の詳細については、後ほど報告第３号にて、担当より説明を行います。続いて総務費の姉妹都市推進事業費の188万円です。これは国際友好都市の韓国・三陟市にて行われるマラソン大会へ、中学生等を派遣するための相互派遣事業の経費です。本年４月25日（土）に三陟市で開催される、「ファンヨンジョ国際マラソン大会」へ中学生選手団を派遣する経緯となります。訪問期間は４月23日（木）から４月26日（日）の４日間、訪問団長は濱田教育長職務代理者が務め、選手団は市内２つの中学校よりそれぞれ３年生が清明中学校から男子１名、明峰中学校から男子２名・女子１名、計４名となり、男子が３名・女子１名になり、スポーツ課の宮野主事が随行者となります。なお、５月23日（土）・24日（日）に本市で開催される黒部名水マラソン大会には、三陟市から訪問団が来日することとなっており、その受入れに50万円を計上しています。続いて、教育研究費の9,975万２千円です。事業概要ですが、まず、黒部の未来枠となる、市教育支援センター「ほっとスペース」開設費の877万３千円です。これは、不登校児童生徒への支援を行う、教育相談員１名・指導員２名を配置し、不登校児童生徒への居場所づくり、学習及び自立支援を行う事業です。続いて同じく黒部の未来枠の拡充事業である、校内教育支援センター支援員（５名）設置費の382万３千円です。これは、令和７年度より市内の全小学校に校内教育支援センターを設置し、支援員を３名配置し取り組んでいる事業です。令和８年度については、中学校にも校内教育支援センターを配置し、支援員を

２名配置し不登校生徒を支援していくこととしております。続いて、黒部の未来枠となる、学校司書（８名）設置費の1,530万８千円とスタディ・メイト（29名）設置費の5,474万９千円です。これらはそれぞれ、児童生徒の図書活動の充実と、学校での生活支援が必要となる児童生徒の支援を行う事業です。続いて、黒部の未来枠の拡充事業となる、医療的ケア対応看護師（２名）設置費の717万５千円です。これは、令和８年度より新たに、１名の医療的ケアが必要な児童が入学することから、看護師資格を有する職員を配置し、安全に学校教育を受けられる環境を整備していく事業です。続いて、黒部の未来枠となる、コミュニティ・スクール推進事業費の177万８千円とふるさとキャリア教育・豊かな体験活動促進事業補助金の271万３千円です。これらは、地域の魅力や人材を活用しながら、地域とともにある学校として、児童生徒の学びを推進していく事業です。続いて、国際化教育推進事業の、黒部の未来枠となる、姉妹都市交流研修事業費の615万１千円です。これは、隔年で中学生の相互派遣を行っている、アメリカのメーコン・ビブ郡へ、令和８年度は中学生20名を派遣する年となっており、この事業を通して、国際化教育の推進と、生徒のコミュニケーション能力の向上を図るものとなります。続いて、ICT・デジタル化教育推進事業の、黒部の未来枠の新規事業となる、GIGAスクール端末用フィルタリングソフト使用料の207万２千円です。これは、令和７年度に整備したタブレット端末において、今後、家庭への持ち帰りの頻度の増加が見込まれていることと、学校内でのさらなる個別最適な学びにつなげるため、不適切なコンテンツ等へのアクセスや、使用時間帯の制限、ログの解析等の機能を含めたフィルタリングソフトを導入し、家庭や学校ともに、学習環境の安全を図る事業です。続いて、小学校就学援助費の、黒部の未来枠の新規事業となる、小学校給食無償化事業費の１億2,686万２千円です。これは、令和８年４月より、国が学校給食費の抜本的負担軽減のため、小学校における学校給食の給食費に対し、児童１人当たり月額5,200円を基準額とした、給食費負担軽減交付金を創設しています。黒部市としても、保護者負担の軽減と支援を図ることを目的として、市の単独予算として月額1,509円の支援を行い、小学校の給食を無償化とする事業です。続いて、公民館管理運営費の１億2,773万２千円の中にある、施設改修費の5,194万７千円のうちの、新規事業となる前沢公民館多目的ホール外部改修事業費の4,332万６千円です。これは、平成元年に竣工した前沢公民館にて、経年劣化による外壁の亀裂が散見されており、中でも多目的ホールの外部の劣化が著しいため、補修と長寿命化を図る事業です。続いて、芸術文化推進事業の、黒部の未来枠となる、黒部シアター2026開催補助金の1,000万円です。これは、観光文化政策推進強化事業として、令和８年度も継続して実施するものになります。続いて、文化財保護調査事業として、松桜閣の庭園環境整備事業費の50万円です。これは松桜閣の環境整備のために、地元と折半をしながら各種修繕・工事を行う事業です。令和８年度は池のヘドロ処理を行う予定です。同じく文化財保護調査事業の、新規事業となる、生地たいまつ祭り倉庫整備事業費の131万円です。これは、生地たいまつ祭りなどの備品の保管場所となっている、旧生地東部保育所の建屋が、経年劣化により床が抜けてきているため、保存会が行う改修の事業費の３分の１を支援する事業です。続いて、ジオパーク推進事業の、652万７千円の中の、拡充事業となる、ジオサイト看板製作事業費の150万円です。これは、現在黒部市内にジオサイトの看板が十分に整備されていないことから、ジオパーク再認定審査においても看板を整備する旨の指摘を受けているため、看板の整備を進めるにあたり、今回篤志寄附があったことから、事業費を拡充し進めていくものになります。続いて、吉田科学館管理運営費の9,377万円の中の、施設改修費2,302万円のうち、黒部の未来枠の新規事業となる、吉田科学館照明LED化事業費の1,944万５千円です。これは、吉田科学館のプラネタリウムドームを除く、全館全ての照明をLED化し、二酸化炭素の排出量を削減する事業です。続いて、地域スポーツ振興事業の7,530万円のうち、新規事業となる、第47回北信越中学校総合競技大会開催補助金の５万円です。令和８年度に富山県内にて北信越中学校総合競技大会が開催されるのですが、その中のバレーボール競技が、黒部市と入善町が会場となることから、富山県中学校体育連盟に対して５万円を補助する事業です。同じく地域スポーツ振興事業の7,530万円のうち、黒部の未来枠の新規事業となる、(株)KUROBEアクアフェアリーズ富山株券購入費の500万円で

す。これは、令和７年７月に株式会社KUROBEアクアフェアリーズ富山が設立されており、その株券等を購入し、支援していく事業です。続いて、社会体育施設管理運営費の２億4,204万２千円の中の、黒部の未来枠の新規事業となる、ペデストリアンデッキ改修工事費の2,000万円（国１／２）です。これは、総合体育センターの外から２階へ上がる階段と上部の歩行者用のデッキである、ペデストリアンデッキが老朽化に伴い、破損箇所が随所に見られ、その箇所が雨漏り等の原因ではないかと推測されていることから、利用者の安全と施設の保全のために、まずは国の補助事業の１／２を活用し、トレーニングルームの外部と上部に位置する、階段と上部の歩行者用デッキを修繕する事業です。最後に、学校給食センター管理運営費の１億2,617万２千円の中の、施設維持管理費3,510万１千円のうち、黒部の未来枠の新規事業となる、照明LED化工事実施設計業務委託費の193万３千円です。これは、先ほど説明した、吉田科学館のLED化と同様の事業となります。以上、黒部の未来枠の新規・拡充事業の説明のみとなりましたが、以上となります。最後に、教育委員会全体の予算合計ですが、22億149万７千円となり、前年度より4,396万４千円減となりますが、ほぼ前年並みとなっております。令和８年度の市の一般会計予算は224億円を見込んでおり、おおむね約10％を教育費が占めていることになります。この後３月３日より開催される、黒部市議会３月定例会にて上程され、審議されることになります。報告は以上です。

教育長　　今ほどの報告について、質問等ありましたらお願いいたします。

委員　　（質問等なし）

教育長　　つぎに、「報告第２号　令和７年度一般会計３月補正予算（教育委員会関係）の概要について」報告願います。

教育部長　　令和７年度一般会計３月補正予算（教育委員会関係）の概要について報告します。こちらも３月３日より開催される議会にて上程される補正予算となります。内容は総務費の主要政策推進費として９万円を追加補正するものです。これは、黒部市退職女性教職員千草会 様より、同団体が解散したことより、市の教育環境充実のために役立ててほしいということで、ご寄附をいただいたものとなり、それを教育文化振興基金に積み立てるものになります。報告は以上です。

教育長　　今ほどの報告について、質問等ありましたらお願いいたします。

委員　　（質問等なし）

教育長　　つぎに、「報告第３号　令和８年度黒部市学校給食運営について」報告願います。

学校給食センター所長　　令和８年度黒部市学校給食運営について報告します。令和８年度黒部市学校給食運営について、２月６日に学校給食運営委員会を開催し、協議し決定した事項についてお伝えします。まず、学校給食の年間事業に関することとして、（１）衛生的で安全な給食の提供、（２）食育の推進と食事内容の充実、（３）学校・家庭・地域との連携、（４）学校給食施設の適切な維持管理の以上４つを方針とし、学校給食事業を実施するにあたり、黒部市学校給食事務取扱規定を順守し、行うこととします。続いて給食費に関することになります。こちらはお配りした資料を基に説明します。学校給食は、安全な国産食材の使用や、栄養価の確保、子どもたちに喜ばれる給食の観点を考慮しながら、給食の質を維持して、おいしく安全・安心な給食の提供を図るため、令和８年度の学校給食費を、令和７年度から約７％増とし、それぞれ中学校を429円、小学校を369円、幼稚園を318円、保護者負担額は資料に記載のとおり、小学校は０円、中学校と幼稚園は平成28年から据え置きとなり、それぞれ中学校が324円、幼稚園が232円となります。差額については、黒部市学校給食費負担軽減対策事業や、小学校給食無償化事業の補助金に

	て補う予定としています。この他、学校給食用物資の調達についてと、学校給食実施計画については、資料に記載の通りとなります。報告は以上です。
教育長	今ほどの報告について、質問等ありましたらお願いいたします。
委員	（質問等なし）
教育長	つぎに、「報告第４号　課等の事業報告（経過・予定）について」報告願います。
学校教育課長	〔経過事業〕 ○２月６日　令和７年度市町村教育委員会研究協議会 ○２月９日　黒部市教育振興協議会 ○２月10日　令和７年度黒部市教育文化表彰式 ○２月27日　教育委員会２月定例会 〔予定事業〕 ○３月３日　黒部市議会３月定例会（～25日） ○３月12日　中学校卒業式 ○３月17日　小学校卒業式 ○３月24日　小中学校修了式 ○３月27日　教育委員会３月定例会 ※参考 ○４月８日　小中学校始業式 ○４月９日　中学校入学式 ○４月10日　小学校入学式
生涯学習文化課長	〔経過事業〕 ○２月10日　令和７年度伝承芸能・伝承技術士認定式 ○２月21日　令和７年度生涯学習フェスティバル（～22日） ○２月22日　ジェンダー平等講演会 ○２月26日　生涯学習推進事業重点館実践報告会 ○２月26日　詩の道句集選定委員会 〔予定事業〕 ○２月27日　市Ｐ連活動報告会 ○３月２日　黒部舞台芸術鑑賞会実行委員会 ○３月２日　第４回黒部踊り街流し実行委員会
スポーツ課長	〔経過事業〕 ○２月１日　第20回黒部市民スキー競技大会 ○２月13日　第19回SKIMO日本選手権黒部・宇奈月温泉大会（～15日） 〔予定事業〕 ○２月28日　カーター記念第43回黒部名水マラソン申込締切
図書館長	〔経過事業〕（あおーよ図書館） ○２月９日　蔵書点検による休館（～19日） 〔予定事業〕（あおーよ図書館） ○３月５日　えほんのよみきかせ会

〔経過事業〕（宇奈月図書館）
○２月４日　宇奈月ロータリークラブ文庫寄贈式

〔予定事業〕（宇奈月図書館）
○３月１日　「ロータリークラブ寄贈本」展（３月31日）

学校給食センター所長

〔経過事業〕
○２月６日　「北方領土の日」記念給食
○２月６日　学校給食運営委員会
○２月12日　全国学校給食週間　２回目（～20日）
○２月18日　学校給食アレルギー対応食保護者面談（～19日）

〔予定事業〕
○３月23日　３学期学校給食終了

こども支援課長

〔経過事業〕
○２月４日　桜井小１年生との交流会
○２月25日　中央小５年生との交流会

〔予定事業〕
○３月19日　さくら幼稚園卒園式
○３月24日　さくら幼稚園修了式

教育長

今ほど各課からの報告がありましたが、質問等があればお願いいたします。

委員

（質問等なし）

教育長

今ほどの報告の中に、２月６日の令和７年度市町村教育委員会研究協議会の報告がありました。こちらには教育委員がご出席されました。せっかくの機会でありますので、ご報告をお願いいたします。

委員

２月６日に東京都にて、令和７年度市町村教育委員会研究協議会に参加させていただきました。本当にありがとうございました。この日の東京はとても天候がよく、会場近くの公園には多くの人がいた光景を目にしていたのですが、東京から戻った私の車には雪が積もっており、東京との違いを実感しました。協議会についてですが、まず分科会の進め方の説明があり、２つの研究分科会の１回目と２回目に出席してきました。１回目の分科会のテーマは「公立小中学校の適正規模・適正配置について」でした。参加者は私を含めて５名であり、同規模の人口数の市からの参加者が同じグループになっていました。ですが、それぞれの市の学校数は違っていました。というのも、後に判明したのですが、黒部市以外の市はほとんどが４～５・６の市町村の合併で集まっていたり、離島があったりと、簡単に学校を統合できない事情を持っているということで、学校数が多い市の方もおられました。はじめに文部科学省からの説明があり、統合について考えたいポイントとして３つのことを話されていました。こちらは事前に動画配信を視聴していたのですが、それをまとめたものになっていました。ポイントとしては、まず子どもの学習環境の改善という視点を中心に進めてほしいということ、国の基準はあくまでも参考であり、その地域ならではの特徴や歴史的な背景を見て考えてほしいということ、そして小規模の学校を統合するにしても残すにしても、課題を最小化して、利点を生かせるような工夫が必要であるといったことでした。さらに有識者会議では考慮することとして、１つの自治体だけで考えても難しい場合には、周囲の自治体等を含むより広い圏域で考えていくことという「広域化」、教育の部分だけではなく、自治体のあらゆる分野と連携することとする「総合化」、そして最新の教育動向を踏ま

え、タブレットやインターネットでの遠隔地での授業等を含めた「現在化」。この３つが提言されているそうです。こうした中で１番言われていたのは、年数が経ち、複式学級になってから考えるのではなく、将来の状況を予測した上で、次の検討を速やかに行わなければいけないということでした。各市からの説明は、お配りした資料に記載のとおりであり、その記載を基に各市から簡単に説明を行いました。続いて協議として、気になった点を資料に記載しました。気になった点としては、保護者が統合に賛成しても、地域が反対しているケースが非常に多いということ、また、20年前の市町村合併にて新たな市となったものの、やはり自分の町には絶対に1つ学校が欲しいといった意識がとても高いということ、またこれは黒部市も同様ですが、地域独自の伝統や文化があり難しいということ、そして、コミュニティ・スクール事業により、地域の方々が自分の町の学校を盛り上げていこうという状況下で統合というのはどうなのか、これらの意見が出てきて、どこも同じなのだなと感じました。その意見の中で出てきた話ですが、山の方の学校の子どもたちが、海の方の地域の人たちに魚のさばき方を教えてもらうといったことがあったそうです。そのように、自分の町の子どもたちといった意識ではなく、もっと広く自分たちの市の子どもたちといった意識になるような、活動等の工夫が必要なのではないかという話が出ていました。次に中学校なのですが、中学校は教科ごとの担任となるため、免許を持っていない担当者が出ないようなクラスの数にすることが、本当は必要なのではないかといった話が出ていました。よくある例として、技術の先生が不在のため、理科の先生が技術の授業を担当するといったことでした。そういったことのないようなクラス数が本来望ましいのではないかといったことや、県単位で、そういった学校に非常勤の講師を配置し、免許外の担当者がいるクラスが出ないようにしている市町村もあるということでした。また、中学校に関しては、制服を全て同じブレザーの形にして、ネクタイの色のみを学校ごとに変更し、将来の統合に向けて取り組んでいるといった市町村もありました。最後に、高知からの参加者の方が言っていたのですが、高知県は南海トラフ地震の問題がとても大きく、今年１度南海トラフ地震に関する注意報が発令されたと思いますが、そういった際にとても心配になるといったことでした。高知県は避難タワーを設置しているそうなのですが、実際にそこへ避難して大丈夫なのかという心配を持っておられる、海の近くの学校があるとのことでした。避難タワーを設置した関係上、その学校が危険であるということは公言できないそうで、高知の教育長がこの会に参加していたのですが、教育長によると、自らが東北へ出向き、東日本大震災の話を聞き、それをまずは地域ではなく小中学校の子どもたちへ啓蒙し、子どもたちから家庭でその話をしてもらえるような状況をつくっているとのことでした。教育長が自ら講師として各小中学校を巡回しているとのことで、今すぐではなくても、少しずつそういった状況が広まっていけばよいと言っておられました。また、９割が賛成していても、１割の反対の人の声の方が大きく、そういう人は次々と発言されるため、なかなか事業を進められないといった話も多くありました。その後、文部科学省の方への質疑応答の時間があったのですが、そこでは、統合に賛成か反対かというところから始めるのではなく、その地域で目指す教育がどのようなものであるかを話し合うことから始め、その教育を目指すためにはどのような状況が必要なのかを話すような状況にしていかなければならないといったことを言っていました。ただやはり、そうは言っても各市町村が抱える様々な課題を考えると、難しいのではないかと個人的に感じました。

　次に２つ目の研究分科会ですが、こちらは「部活動改革と地域スポーツ環境の整備」をテーマとしており、私を含めて４人のグループでの話し合いを行いました。同じグループには千葉県白井市の方がおり、そこだけは市町村合併を行っていない大きな市ではありましたが、他は同じように市町村合併を行っており、中でも山口県萩市は、離島もあり、１市２町４村が統合したことにより、子どもの数は黒部市より少ないにも関わらず、学校の数は圧倒的に多いといった状況であり、ほとんどの学校が単学級や複式学級になっているとのことでした。グループ協議のポイントとして、先ほどの１回目と同じように事前の動画配信の内容をまとめたものがスポーツ庁から配布されていたのですが、少子化や働き方改革等により、部活動を１つの学校で行うことがだんだんと難し

い状況となっているのはどこも同様であるため、そういったことを含めて地域で行うといった、地域移行、現在では地域展開という言い方をしていることについて記載されていました。地域展開については例として、地域で行うことによる新たな価値や、学校の垣根を超えた人との関わりや、地域の人たちとの関りが持てること、また学校という段階にとらわれず、継続して指導を行うことができるといった新たな価値のことを指す言葉として使用されているとのことでした。そうした中で令和８年度より「改革実行期間」が始まり、令和13年までの間に、休日の全ての学校部活動において、地域展開を目指すとのことでした。その後は１回目と同様に各市からの説明を行った後に協議を行いましたが、協議の中で、保護者と指導者との部活動に対する思いの違いを言われており、指導者に元教員が多いためか、部活動は生徒指導の面などを踏まえて、とても大切なものであり、学校で行うべきであるといった思いを持つ指導者が多く、地域展開が難しいことや、そもそもの指導者の確保が難しいといったことや、休日のみに活動はしているけれど、活動数がまだ少ないといったことが言われていました。協議の後半では、山口県萩市の教育長の話を主に聞いていたのですが、萩市では令和８年９月から完全に地域展開とするとのことでした。中学校は離島を含めて13校あるそうですが、そのほとんどが小規模であり、部活動の維持が難しくなってきていることから、令和８年９月からは、まず部活動は火曜・木曜・土日のどちらかの週３回とし、火曜と木曜は各学校にて、自主練のような形でそれぞれの技術を磨いていくような練習を行うこととしており、その練習には、地域の指導者や、市の大学に通う教員を目指す生徒を補助として派遣するということを行っているそうです。そのように、平日は各学校で指導を受け、土日のどちらかには、どこかの学校や体育館に集まり部活を行うこととし、送迎は保護者が行うが市の公用車を貸し出すこと、各種保険は市が加入する、吹奏楽部については、大きな中学校が２校あり、その２校は自転車で10分ほどの距離に位置していることから、平日はどちらかの学校に行って練習を行い、土日のどちらかは様々な学校からひとつの場所に集まり、合同で練習をするといった計画を９月から始めることにしているそうで、３年前から協議会を立ち上げ、色々なところと話をしながら、他の市にも連絡をし、結果を教えてもらうといった状況だそうです。部活動の地域展開については、アンケートの取り方についても話題となり、とにかくいろいろなところにアンケートを取り、思いを聞いているといったところが多かったのですが、子どもがタブレットでアンケートに答え、そのタブレットを持ち帰り、保護者にも答えてもらうやり方や、市のホームページにアンケートを掲載しているやり方を行っているとのことでした。子どもや保護者からの回答は集まりやすいが、一般の方や地域の方からの回答は集まりにくく、ホームページに掲載しても限りはあるが、様々な年代からの回答を集めることができることも言っていました。最後の質疑応答では、やはり部活動の存在意義をしっかりと考えて進めていかなければならないのではないかということが言われていました。その中で、小学校は昔色々と行っていたものが、40年位前からスポーツ少年団という形になり定着をしていると思うが、中学校はここ２・３年に地域展開をということを頻繁に言われるようになり、来年度からこうしますというようなことを言われてもやはり難しいのではないかといった意見も出ていました。それに対して国からは、目標としてこのように掲げており、補助金等の予算の増額をし、引き続きフォローをしていくことや、地域展開を先進的に進めている例を出しながら、何とか共に事業を進めていきたいということを言っていました。報告は以上です。

教育長　　貴重な研修の報告をしていただき、ありがとうございました。何か質問等はありますでしょうか。

委員　　（質問等なし）

教育長　　このテーマについては、黒部市も抱えていることでありますので、他の市町村の情報もいただきながら、お互いに共有しつつその地域に合った進め方を行うことが大事なのかなと思いました。これからも引き続き検討していきたいと思います。

それでは、「７　連絡事項等」について、事務局からお願いします。

学校教育課長

¶　中学校卒業式
【日程】３月12日（木）
¶　小学校卒業式
【日程】３月17日（火）
¶　３月定例教育委員会
【開催日】３月27日（金）【時間】午後１時30分【場所】市民交流サロン１
¶　中学校入学式
【日程】４月９日（木）
¶　小学校入学式
【日程】４月10日（金）
¶　４月定例教育委員会
【開催日】４月24日（金）【時間】午後３時00分【場所】市民交流サロン１

教育長

ありがとうございました。最後に、委員より１つご提案をいただいておりますので、よろしくお願いいたします。

委員

お時間をいただきありがとうございます。実は外国人の方から、外国人児童生徒に対する対応についてのご意見をいただき、非常に残念な気持ちになりました。ただ、残念な気持ちになったままではだめなのかなと思いご提案しました。教育委員会としても現時点で各学校とともに、様々な取組を行っているとは思いますが、私自身が勉強不足なところもあり、教育委員会として、或いは各学校として、どのような取組を行うことで、外国人の方や外国人夫婦の児童生徒への支援を行っているのか、また生徒指導に対して、多様な考え方やルーツが様々な方に対しての相互理解を求めるような教育をどのように行っているのかを、もう少し詳しく知りたいと思いました。そして、現時点において、学校全体で外国のルーツを持つ方や、外国人の方がどれくらいの割合でいるのかも併せて知りたいと思いました。これから時代が進むにつれて、こういった方の割合も増えていくのではないかと思います。そしてそういった方が増えることによって、やはり一定の割合で問題も起きていくと思います。そのようなことを想定し、そのようになる前に様々な取組を行う必要があるのではないかと思い、今回お時間をいただきました。今ほどお伝えしたことを教えていただき、教えていただいた上で、今後さらにどのような形で良い方向へ持っていくのかということを、皆さまと共に共有しながら、最終的には、例えば再来年度の教育の方針の中に、外国の方も含めた人権の部分について、具体的に記載してもよいのではないかと感じました。ぜひお願いしたいと思います。以上です。

教育長

貴重なご提案をありがとうございました。今すぐにこの場でお答えすることが難しいため、資料にも記載されていますが、３月の教育委員会の定例会までに、情報を整理し、それを基に進めていきたいと思います。令和８年度の教育の方針にも、心の教育や支援教育と記載していますが、それは具体的にどのようなことかというと、困っている・悩んでいる・不安に思っている人たちへ、どのように手を差し伸べていくのか、いや、差し伸べるのではなく、一緒に進んでいかなければならないということなのかと思います。先ほどの委員の研修報告にもありましたが、我が子や我が地域の子という認識ではなく、実は我が市の子、我が県の子、我が国の子、地球の子という認識が大切だと思います。また、「子どもは未来」という言葉がありますが、その言葉通り、子どもは未来から預かっている存在であるという考え方もできると思います。非認知能力といった新たなことも絡んでくると思いますので、少しお時間をいただき、情報をしっかりと整理し、黒部市の教育に反映していきたいと思います。小さな声を大切にして、子どもたちの教育に向かうことは、とても大切であると思うので、次回に向けて検討し、整理していきたいと思います。

それでは本日の会議をこれで閉じたいと思います。お疲れ様でした。

上記、議事録の正確なることを証するために、次に署名する。

令和８年３月27日
署名人　黒部市教育委員会　教育長　　齊藤　　誠